

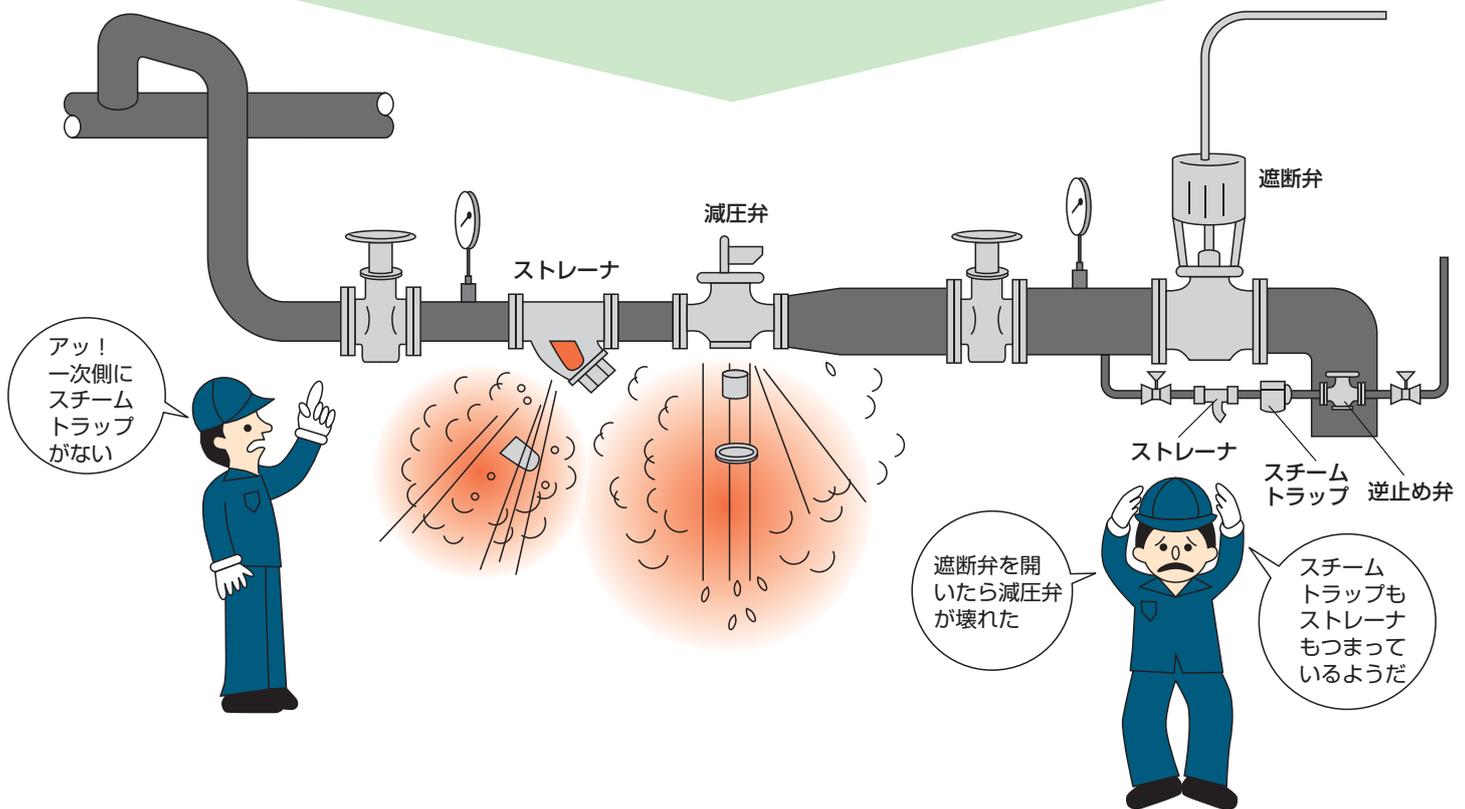
トラブル例 1

鋳鉄製弁の破損

図のように、減圧弁の出口側に遮断弁を設置して減圧弁の前後の配管にスチームトラップがなかったり、スチームトラップの故障あるいはトラップ用ストレーナが目詰まりしている場合、遮断弁の長時間の閉止によって減圧弁の前後の配管には、多量のドレンが滞留します。

この状態で遮断弁が開くとドレン障害で減圧弁が不安定動作を行ない、激しいスチームハンマが発生することがあります。

そのスチームハンマの衝撃力は予測がつかず、時には減圧弁やストレーナの強度を超えるものとなりねずみ鋳鉄製弁箱が破損することがあります。



警告

減圧弁の出口側に遮断弁を設置し、減圧弁やストレーナの弁箱がねずみ鋳鉄製の場合、減圧弁の前後配管にドレンが滞留しないようにしてください。

ドレンが滞留している場合、遮断弁の開弁時スチームハンマが発生し、弁箱が破損することがあります。



対策

1. 減圧弁の前後にスチームトラップを設置し、定期的に作動を点検する。

2. 減圧弁やストレーナの弁箱を鋳鋼製にする。

3. 遮断弁をスチームハンマが発生しないようにゆっくり開く。